2019年度

（第5期）

事業計画書

自　2019年 4月 1日
至　2020年 3月31日

HON.jp

2019年6月吉日

特定非営利活動法人HON.jp

（旧：日本独立作家同盟）

1. 役員体制

1-1. 理事退任の件

創設時より当法人の理事に就任、活動してきた西野由季子氏が一身上の都合により6月30日の任期満了をもって退任、他の理事は7月1日以降も重任することが理事会で承認された。定款で理事は3人以上と定められており、欠員状態ではないため、退任に伴う補充は行わない。

なお、西野由季子氏のこれまでの貢献に感謝し、創設時の役員が退任した場合に就任できる名誉職として「ファウンダー」を設立、就任が承認された。ファウンダーは、議決権を除き、正会員と同じ特典を会費なしで得られる。

1-2. 監事選出の件（表決事項）

第4期まで監事として活動いただいた天野治夫氏に、重任いただきたい。

2. 事業計画

2-1. NPO法人全体の活動方針

2019年4月より、当法人は「日本独立作家同盟」から「HON.jp」へと名称を変更した。これにより、定款の目的である「当法人は、著者や読者など、すべての出版に関わる人々を対象に、だれでもどこでも、デジタル・ネットワーク技術を活用した、革新的で自由な出版活動を行える、豊かな社会づくりに貢献する」と、法人名とのあいだの齟齬は解消された。

しかし「HON.jp」という名称だけでは、なにをやっている団体なのかがわかりづらくなったのも事実だ。そこで今後は、タグラインとして「**本（HON）のつくり手をエンパワーする**」を掲げることにした。紙もウェブも電子書籍も、つくり手たちがさまざまな言葉や色で紡いだ想いを読み手につなぐものという役割は同じ。「本（HON）」と括弧書きしているのは、紙の冊子だけが対象ではないという意味を込めている。また、「支援」ではなく「エンパワー」という言葉を選んだのは、自分自身が持つ力を継続的に発達・向上させていく、というニュアンスがある。

また、当面のミッションを「**これからも本（HON）を作ろうとしている人々に、国内外の事例を紹介し、デジタルパブリッシングを含めた技術を提供し、意見を交換し、仮説を立て、新たな出版へ踏み出す力を与える**」とした。これは、本（HON）のつくり手に関する社会課題はさまざまだが、残念ながら当法人のリソースは限られているため、まずなにを優先すべきなのかを「HON.jp News Blog」というメディアやイベントなどを通じ、改めて検証していこうという意味だ。

なお、当法人の定款に定める活動領域は、以下のとおりである。

【特定非営利活動の種類】

- 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 情報化社会の発展を図る活動
- 社会教育の推進を図る活動
- 経済活動の活性化を図る活動

【特定非営利活動に係る事業の種類】

- 出版事業
- イベント事業
- メディア事業
- エージェント事業
- その他目的を達成するために必要な事業

2-2. 部会制度について

部会は、当法人のミッション実現のため活動主体となるチーム。活動分野ごとに結成し、予算策定や事業の執行などを行う、としてきた。しかし、制度や体制・責任範囲などがあいまいで、あまり機能しているとは言えない状況であった。そこで、**部会のメンバーになれるのは、当法人の正会員と、役員およびファウンダーのみとする**、などの制度改正を行う。

2-2-1. 部会の運営について

- 部会は、当法人の持つさまざまなリソースが活用できる
- 部会は、活動内容を担当理事を通じて理事会へ随時報告する必要がある
- 部会は、毎年2月末までに翌年度の事業計画と予算を策定、4月末までに事業報告と決算を策定する必要がある
- 部会の年間活動予算および決算は、理事会の承認が必要となる
- 部会の活動が当法人の目的に適合しないと理事会が判断した場合は、活動を停止できる
- **部会長・副部会長の任期は1年（理事の任期同様、毎年6月末まで）とし、再任は妨げないものとする（★新）**
- **部会のメンバーは5人以上であることを条件とし、欠員はすみやかに補充する必要がある（★新）**
- **部会は、活動報告を最低でも年1回、公式サイトで公開する必要がある（★新）**

なお、既存の部会は、2019年7月1日以降も活動を継続するかどうか、2019年7月1日以降も現在の部会長・副部会長を再任するかどうかなどを、担当理事へすみやかに報告すること。

2-2-2. 部会の新設について

- 部会の活動領域は、当法人の定款（第4条 特定非営利活動の種類と第5条 事業の種類）に定められた特定非営利活動に係る事業活動のいずれかとする（複数でも可）
- 部会の設置には、部会メンバーが**5人以上**必要となる（**★改**）
- 部会メンバーの互選によって部会長1名、副部会長**1名以上**を決める（**★改**）
- 部会メンバーが**4名以下**で部会が成立しない場合は「準備会」とし、予算が策定できない（つまり経費が使えない）（**★改**）
- つまり部会の結成は、まず発起人が他の正会員に向け準備会への参加を呼びかけることからスタートする
- 部会の活動目的を明文化し、2年度分の事業計画と活動予算を策定、理事会から承認を得られたら部会が成立する
- 部会には、主幹する理事1名が必要となる（理事は部会メンバーを兼任できる）

2-3. 個別の部会について

2-3-1. NovelJam部会

担当理事は江口晋太朗から鷹野凌へ変更。現在の部会長は小野寺ひかり。

今後はNovelJamの名称やノウハウをオープンソース化、まずは「私たちの手でNovelJamを開催したい！」という正会員向けに「開催手引書」を公開する。そして、企画から計画・運営まで、基本的にすべて部会にお任せする。2019年度の暫定措置として、NovelJamの運営をしたい人が手を挙げ、メンバーを集め、企画・計画・運営する「**プロジェクト方式**」を採る。ただし、NPO法人HON.jpのリソースを使って「NovelJam」として開催するには、以下の条件を設る。

- **チームで創作し不特定多数に公開（＝出版）するイベントであること**
- **運営メンバーに正会員が5人以上いること（部会長1人+副部会長1人+部会員3人以上）**
- **企画段階から計画・運営のプロセスを、ナレッジとして公式サイトで公開すること**

運営メンバーの正会員が5人に満たない場合は、不足1人につき1万円（税別＝正会員1人の年会費と同額）の「のれん代」を支払うことで開催が可能となる。なお、NPO法人HON.jpが現時点で提供可能なリソースは、開催手引書を参照のこと。

2-3-2. 電子書籍制作流通部会

担当理事は池田敬二。現在の部会長は小嶋智。現状、部会員メンバーが5人未満であるため、活動を続ける場合はすみやかにメンバーを補充する必要がある。

2-3-3. 読者を増やそう部会

担当理事は仲俣暁生。現在の部会長は椋康雄。現状、部会員メンバーが5人未満であるため、活動を続ける場合はすみやかにメンバーを補充する必要がある。

2-3-4. メディア部会

担当理事は鷹野凌。部会長も鷹野凌。「HON.jp News Blog」で反応の大きいテーマから優先的に仮説を立て、不定期にイベントを開催して検証する。PVはKPIにしないと決めているが、そうは言ってもある程度のサイトパワーがないと協賛やバナー広告を獲得するのが難しい。そのため、もう少し書き手の「解説」「意見」「視点」といった観点から、記事内容を強化していく。

3. 活動予算

本稿執筆時点では、NovelJam関連はまだ実施予定がないため予算を組まず、HON.jp News Blogの事業費を抑制気味にし、なんとか赤字が出ない範囲での計画を立てた。明細は次ページ。

書式第１０号（法第１０条・第２５条関係）

2019年度　活動予算書（その他事業がある場合）

特定非営利活動法人HON. jp

（単位：円）

科目	特定非営利活動に係る事業 金額	特定非営利活動に係る事業 小計・合計	その他事業 金額	その他事業 小計・合計	合計
【A】　経　常　収　益					
1　受取会費		611,000		0	611,000
正会員受取会費	350,000				
サポート会員受取会費	45,000				
法人会員受取会費	216,000				
2　受取寄附金		300,000		0	300,000
受取寄附金	300,000				
3　受取助成金等		0		0	0
4　事業収益		2,333,000		120,000	2,453,000
イベント事業収益	320,000				
メディア事業収益	1,913,000				
出版事業収益	100,000				
その他事業収益			120,000		
5　その他の収益		0		0	0
受取利息					
経　常　収　益　計		3,244,000		120,000	3,364,000
【B】　経　常　費　用					
1　事業費					
（1）人件費		0		0	0
（2）その他経費		2,862,068		0	2,862,068
売上原価	50,000				
印刷製本費	0				
会議費	210,000				
交際費	0				
旅費交通費	5,000				
通信運搬費	3,000				
消耗品費	30,000				
賃借料	0				
支払手数料	60,000				
新聞図書費	3,000				
雑費	0				
外注費	2,160,000				
広告宣伝費	120,000				
期首商品棚卸高	236,068				
期末商品棚卸高	-200,000				
荷造運賃	5,000				
取材費	0				
預り金	180,000				
事業費計		2,862,068		0	2,862,068
2　管理費					
（1）人件費		0		0	0
（2）その他経費		368,228		0	368,228
印刷製本費	5,000				
会議費	20,000				
通信運搬費	3,000				
消耗品費	50,000				
減価償却費	11,302				
諸会費	158,000				
租税公課	0				
支払手数料	50,000				
支払報酬料	70,926				
外注費	0				
管理費計		368,228		0	368,228
経　常　費　用　計		3,230,296		0	3,230,296
当　期　経　常　増　減　額　【A】－【B】　・・・①		13,704		120,000	133,704
【C】　経　常　外　収　益					
経　常　外　収　益　計		0		0	0
【D】　経　常　外　費　用					
経　常　外　費　用　計		0		0	0
当　期　経　常　外　増　減　額　【C】－【D】　・・・②		0		0	0
経　理　区　分　振　替　額		120,000		-120,000	
税　引　前　当　期　正　味　財　産　増　減　額　①＋②　・・・③		133,704		0	133,704
法人税、住民税及び事業税　・・・④					70,000
前期繰越正味財産額　・・・⑤					-507,494
次　期　繰　越　正　味　財　産　額　③－④＋⑤					-443,790